

教職専門実習の目的

教職大学院のカリキュラムの特色のひとつに「教職専門実習」（10単位）があります。講義による学びと学校現場での学びを往還させ、理論と実践の架橋をめざす新しい教育を生み出す重要な科目がこの教職専門実習です。

教職大学院が創設された目的に「実践的指導力」のある教員の養成があります。本研究科では、実践的指導力とは実務能力に優れているということだけではなく、多様で複雑な教育課題のある中、子ども、保護者、教職員等との信頼関係を築きながら、これらの課題に的確、柔軟に対応しつつ、創造的に教育実践を担っていける力であると考えています。それには、理論知を実践の中で読み解く力、実践の中から普遍的な知見を練り上げる力が必要です。この力を育てることが実習の重要な目的です。

教職専門実習の特色

- 講義と実習との往還を促すため、10単位の实習を、専門実習Ⅰ（3単位）とⅡ（7単位）の2期にわけて実施します。
- 教職専門実習を通じて見いだした課題と、研究科での学びの集大成である修了論文のテーマを関連づける実習となることをめざしています。
- 学習指導、児童・生徒指導、校務分掌理解を中心に、実習校の準スタッフとしての業務を体験することで、教員の職務全般を理解します。
- 実習では体験と同時にそれを省察し、そのことを交流する機会が重要です。実習校での振り返りに加えて、実習期間中に定期的に大学に戻り指導教員の指導の下、省察と交流の場を持ちます。
- 京都府・京都市教育委員会との連携の下、教職専門実習に関する委員会等には、実習校の校長先生や指導担当の先生方も加わっていただき、よりよい実習指導のあり方について検討・協議を行います。実習指導の改善に向けて、教職大学院と実習校とが共に取り組みを進めています。

授業科目の概要

学校臨床力高度化系

■学校臨床専門実習Ⅰ

初任期教員養成コース▶1年次において、連携協力校における実習等を通して、学校が抱えている教育課題の理解を深めること、職務遂行能力の基礎を養うこと、大学院での講義、演習などで得た知見を基に、実習における経験を省察し、その背景、文脈を読み解くことをテーマとします。

中核教員・リーダー教員養成コース▶1年次において、勤務校における実習等を通して、中核教員（リーダー教員）として必要な職務遂行能力を身につけること、大学院での講義、演習などで得た知見を基に、実習における経験を省察し、勤務校の教育課題の背景、文脈を読み解くこと、勤務校の教育課題に向き合うことにより「臨床の知」を豊かにすることをテーマとします。

■学校臨床専門実習Ⅱ

初任期教員養成コース▶2年次において、連携協力校における実習等を通して、指導力の向上を図るとともに、学校の教育課題の改善に向けた校内研究など、学校における組織的な業務を遂行する力量を身につけること、児童生徒の様子など学校における様々な状況の文脈を読み解き、その改善に向けた取り組みを推進する力量を身につけることをテーマとします。

中核教員・リーダー教員養成コース▶2年次（短期履修の場合は1年次）において、勤務校における実習等を通して、中核教員（リーダー教員）として必要な職務遂行能力の向上を図るとともに、学校の教育課題の探索、その課題の改善に向けた校内研究の企画、若手教員の育成など（リーダー教員の場合は、その課題を踏まえた学校経営戦略の作成など）、学校の組織的活性化、改善を図る力量を身につけることをテーマとします。

教科研究開発高度化系

■教科研究専門実習Ⅰ

1年次の8月～9月に3週間実施するこの実習では、附属学校園の担当指導教員から実習に関する指導を受けながら教科の授業（保育）を中心に実習を行うと共に学級担任の職務や校務分掌についても実習し、自らの実践的指導（保育）力の課題を明らかにすることを目指します。

具体的には、幼児・児童・生徒を深く理解する力、幼児・児童・生徒が深い学びを実現できるように授業（保育）を適切にデザインする力、自らの実践を省察し、実践を探究する等の実践的指導力の育成を目指します。その際、大学院における学びと学校現場での学びを相互に行き来して、理論から実践を読み解き、実践から理論を振り返ることが重要です。

■現職教員院生の場合

B型入試で入学した現職教員院生は、勤務校又は附属学校園において教科研究専門実習Ⅰ、教科研究専門実習Ⅱを履修し、日常の業務をしつつ自らの研究テーマを深めます。なお教職経験6年以上の場合、教科研究専門実習Ⅰを履修したものとみなす制度により、認定される場合があります。

■教科研究専門実習Ⅱ

2年次の4月～5月に7週間実施するこの実習では、1年次に附属学校園で行う教科研究専門実習Ⅰを基盤としつつ、大学院における学びによってこれまでに修得した専門知識や理論を、公立学校園ないしは附属学校園の担当指導教員から実習に関する指導を受けながら実習を通してより実践的なものにし、授業力（保育力）を中心とした自らの実践的指導（保育）力のより一層の向上を目指します。

具体的には、幼児・児童・生徒をより深く理解する力、幼児・児童・生徒が深い学びを実現できるように授業（保育）をより適切にデザインする力、自らの実践をより深く省察し、実践を探究する等の実践的指導力のより一層の育成を目指します。その際、大学院における学びと学校現場での学びを相互に行き来して、理論から実践を読み解き、実践から理論を振り返ることが重要です。